

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	087 -	事業名	農楽校事業		担当部課	建設部みどりの推進課			
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	会計区分	一般会計					
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～	予算区分(款 - 項 - 目)						
	第6次総合計画・基本目標	✓ みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物	5-1-7 長久手田園バレー事業費						
	法定受託事務の有無	-							
	その他(関係計画、要綱等)	✓	長久手農楽校設置要綱						
事業開始の背景、経緯等	長久手田園バレー事業の施策として、多様な担い手の育成を目指し、農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得するために開設された。								
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 農業を始めたい人又は農作業を体験したい人が、農作業を行うにあたっての基本的又は実践的知識及び技術を習得することで、多様な担い手の育成を目指す。							
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民。							
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。							
	事業を構成する事務事業(B票)	① 農楽校事業	拡充	④					
	②			⑤					
	③			⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)	
	事業費(A)	千円	予算	1891	1946	1946	1,961	1,967	
			決算	1,835	1,736	1,771	1,868		
	人件費(B)	千円	決算	-	1,146	2,819	1,452		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	-	2,882	4,590	3,320			
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)	
	A 修了生(農業知識、技術を習得した市民)	人	目標	40	40	40	40	40	
			実績	32	33	28	41		
	B		目標						
			実績						
	C		目標						
実績									
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)									
A 様々な「農」に関わる市民を増やし多様な農業の担い手を育成するため、修了生(農業知識、技術を習得した市民)を指標とする。									
B									
C									
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町にも同様な農業塾の取組が行われている。							
評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 近年応募人数が定員に達しない状況だったが、受講生募集のチラシ配布等を行ったことで農楽校の周知に繋がり、平成30年度は目標を達成した。							
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 圃場での野菜栽培実習のほか、平成30年度からは東山地区での稲作にも農楽校事業で参画している。修了生のなかには、個人で農地を借りて野菜等を栽培し、あぐりん村やJAIに出荷する人もいる。							
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 開校から16年目を迎え、講師・コーチの高齢化、カリキュラムの硬直化が課題としてあげられる。							
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 修了生の事業実施・運営への参画を促進するとともに、事業の運営体制を更新する。 市民へ事業の周知を行い、ニーズの掘り起こしを図る。							
	中長期の目標	(いっごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 様々な「農」に関わる市民を増やし、多様な農業の担い手を育成するための学習機関として、多くの市民が参加する場とする。							

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

事業(A票)名	農楽校事業			担当部課	建設部みどりの推進課	決算書ページ	—
事務事業名	①	農楽校事業			予算区分	5-1-7 長久手田園バレー事業費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度			終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・対象 農作業を体験したい市民、農業を勉強したい市民、農業を始めたい市民 ・手段 農場実習や加工実習、販売実習、講義を実施
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 農場での実習、農業に関する講義を通して、希望する市民に農業知識、技術を習得してもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	1,891	1,946	1,946	1,961	1,967
		決算	1,835	1,736	1,771	1,868	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		農楽校講師報償金				747	千円
(2)		消耗品費				643	千円
(3)		光熱水費				278	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
修了生(農業知識、技術を習得した市民)	人	見込	40	40	40	40	40
		実績	32	33	28	41	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
・農場(3,500㎡)実習50回・加工実習3回・販売実習1回・農業講義(座学)10回							
・保育園連携事業(芋掘り遠足)							
・市民向け収穫体験・市民向け加工体験(味噌造り)各1回							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

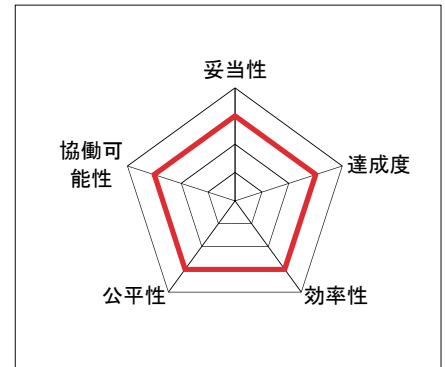
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・講師、コーチの高齢化

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
1,961 千円 1,967 千円 6 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
・農楽校事業への市民参加を促進する。
・農あるくらしの担い手となる、農に関わる市民を継続的に増やしていく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年度に受講生募集のチラシ配布等を行ったことで、修了生を増やすことができた。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	7	7	10	10
実績	7	7	10	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
実習コーチ及び講師を市内農家や農業試験場OBに依頼しているほか、一部の修了生にボランティアでサポートスタッフを依頼している。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
平成29年度に受講生募集のチラシ配布等を行ったことで農楽校を周知することができた。修了生のなかには、個人で農地を借りてあぐりん村等に出荷する人もいる。農に関する知識・技術を持ち、様々な場面で「農」に関わる活動に携わる人が増えている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
・農楽校事業への市民参加を促進する。
・農あるくらしの担い手となる、農に関わる市民を継続的に増やしていく。

7. 今後の方向性

拡充